

令和 6 年度 長久手市総合教育会議 次第

日時 令和 7 年 2 月 1 0 日（月）

午後 3 時 1 5 時から

場所 長久手市役所本庁舎 3 階
第 4 会議室

1 あいさつ

2 議題「学校教育に対する考え方について」

(1) 学校教育における文化芸術の役割について

(2) 子どもの健康づくりについて

3 その他



あいさつ運動・ごみ拾い運動に取り組んでいます。

あたたかく美しいまちをつくりましょう！

長久手市教育大綱

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、市長が教育委員会との協議・調整の場である総合教育会議を設置し、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとなりました。

本市は当分の間、人口が増加すると予測しているものの、その後は超高齢、人口減少社会が到来します。この新しい時代に対応するには、多様な価値観を認め合い、誰もが幸せに感じる社会を築いていけるよう、まちづくりの当事者となる人材を育てていく必要があることから、教育大綱を定めます。

教育理念

人間力を育み いつまでも健やかで夢と生きがいを持ち 成長できる人づくり
～自然共生・地域共存・多様性尊重～

教育方針

現代社会は、物質的な豊かさや快適さを追い求めてきました。その過程において、地域や家庭の絆、つながりが希薄化し、いじめや引きこもり、虐待など様々な社会のひずみは、さらに深刻化してきました。私たちは今、これまでの価値観を見直す時期に来ています。

そこで、人が人らしくあるために不可欠な次の3つの方針を、教育のあり方を考える上での根本に据えて、人づくりに取り組んでいきます。

- 1 自然の大切さ、命の尊さを学び、自然と共生する
- 2 地域で家庭や学校を支え、関わり合いながら、向上心をもって、ともに成長する
- 3 多様な人々の存在や価値観を認め合い、まざって暮らす

教育理念に掲げる人づくりについて

◆ 人として大切なことを備えた人格の形成

家族や友人、職場、地域などとの関係において、「あいさつをすること」「人の話を聞くこと」「ありがとうと感謝の気持ちを伝えること」「思いやりの気持ちを持つこと」が人として大切なことです。

人が社会の一員として自立して成長していくには、公共心を持って主体的思考のできる人材を育成することが必要です。

◆ 健やかさの形成・増進・保持

健康は、人が自分らしく生きていく上での土台となるものであり、様々な活動を行い、能力を発揮するために必要不可欠なものです。成長・発達過程に健全な心身を形成することはもとより大切ですが、のみならず、生涯を通じての心身の健康づくりを進めます。

◆ 役割・居場所のある生きがいつくりの推進

人が幸せに暮らすためには、「人に愛されること」「人に褒められること」「人の役にたつこと」「人から必要とされること」が必要です。誰もが排除されることなく存在を認められ、夢や生きがいを持って自己実現を図ることができるような教育を進めます。

◆ 生涯を通じて、成長できる環境の醸成

人は、環境さえ整えば、いくつになっても、学び、成長することができます。たとえうまくいかなかった場合でも、いつでも、何度でもやり直すチャンスが保証されれば、きっといつかは成就する、そのような可能性に満ちあふれた教育環境の醸成を進めます。

3つの教育方針について

1 自然の大切さ、命の尊さを学び、自然と共生する

人は自然の一環であり、自然から様々な恵みを享受して生存するとともに、自然から様々な叡智を得て、社会の営みを築いてきました。

しかし、今、自然との触れ合いが減少し、自然に反した生活局面も多くなってきており、欧米では心身に支障をきたす“自然欠乏症候群”を危惧する動きもあります。自然の大切さ、命の尊さを学び、自然との共生を図ることが必要です。

2 地域で家庭や学校を支え、関わり合いながら、向上心をもって、ともに成長する

人は他者の支えなしには生きられない社会的な存在です。血縁、地縁、知縁の3つの絆がある中で、都市化や情報化の進展に伴い、居心地の良い“知縁”が重視される一方で、関係づくりが煩わしい“地縁”の希薄化・弱体化が進んできています。家庭も核家族化、少子化が進み、機能が低下しています。

しかし、人の暮らしは生活基盤となる地域を離れては成り立たず、直接的な支えが必要なときには、遠く離れた知縁・血縁では支えになりません。行政サービスでカバーできる範囲にも限界があり、地域の絆が不可欠です。学校も同様です。安心安全で楽しく充実した時を過ごせる住みよい地域は、そこに暮らす住民どうしで形成していく必要があります。

また、地域に暮らしている多世代が互いに交流することで、核家族化、少子化が進んだ家庭では担うことができない、先人が培ってきた知恵、風習、文化の伝承だけでなく、生命の誕生や人生の最期を見守ることや、互いを敬う心、愛おしく思う心を育みます。

人が学び、育つ環境は、こうした地域での暮らしの中にあり、地域との共存は、教育面でも家庭や学校では担えない重要な機能を果たします。

3 多様な人々の存在や価値観を認め合い、まざって暮らす

一人ひとりが大切にされる社会は、自分と違う他者の存在を認めあうことで成り立ちます。また、多様な人が交わり、多様な力が組み合わさることで、補完・支え合いの関係や新たな発見、価値の創造が可能になります。

また、画一的な価値観にとらわれない視野の広いものの見方が、学校にも地域にも家庭にも存在すれば、すべての人は、自ずと相手を寛大に受け入れ、また、自分が受け入れられたことにより、必要とされていることを実感することができます。

長久手市文化の家 教育関係の取り組み

であーと (小中学校)

教室で間近に生のアートを体験する。

2005年開始 延べ体験者数 15,294 人

対象：小学校4年生、中学校1年生

出演：地元アーティスト、創造スタッフ

であーとの特徴

20年間継続中。全国に先駆けた実施。
地元アーティストの起用。給食ゲリラ
演奏による全校生徒体験。

であーとの成果

大人になって、アーティストになって
戻ってくる。今度は提供する側に。



ヴァイオリニスト 徳田真侑さん（南中学校卒業生）2023年実施



チェリスト 福本真琴さん（長久手中学校卒業生）2023年実施



給食ゲリラ演奏の様子 全校生徒の教室を演奏しながら回る

学校鑑賞会

森のホールで本格的な芸術体験

2014年開始 延べ体験者数1,016人

対象：小学校5年生

出演：国内外の国際的アーティスト

学校鑑賞会の特徴

森のホールで世界トップクラスの音楽に触れ、アーティストと出会い、交流する。

学校鑑賞会の成果

長久手でしか体験できない機会を提供。
自分のまちで世界レベルを体験。



森のホールへ5年生を招待



東京フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター 近藤薫さん

舞台見学会

まち探検の授業と連携して、文化の家の
舞台機構や役割を知り愛着を持つ。

2013年開始 延べ体験者数 2,469 人

対象：小学校2～3年生

案内：文化の家職員、ブラックトミー

舞台見学会の特徴

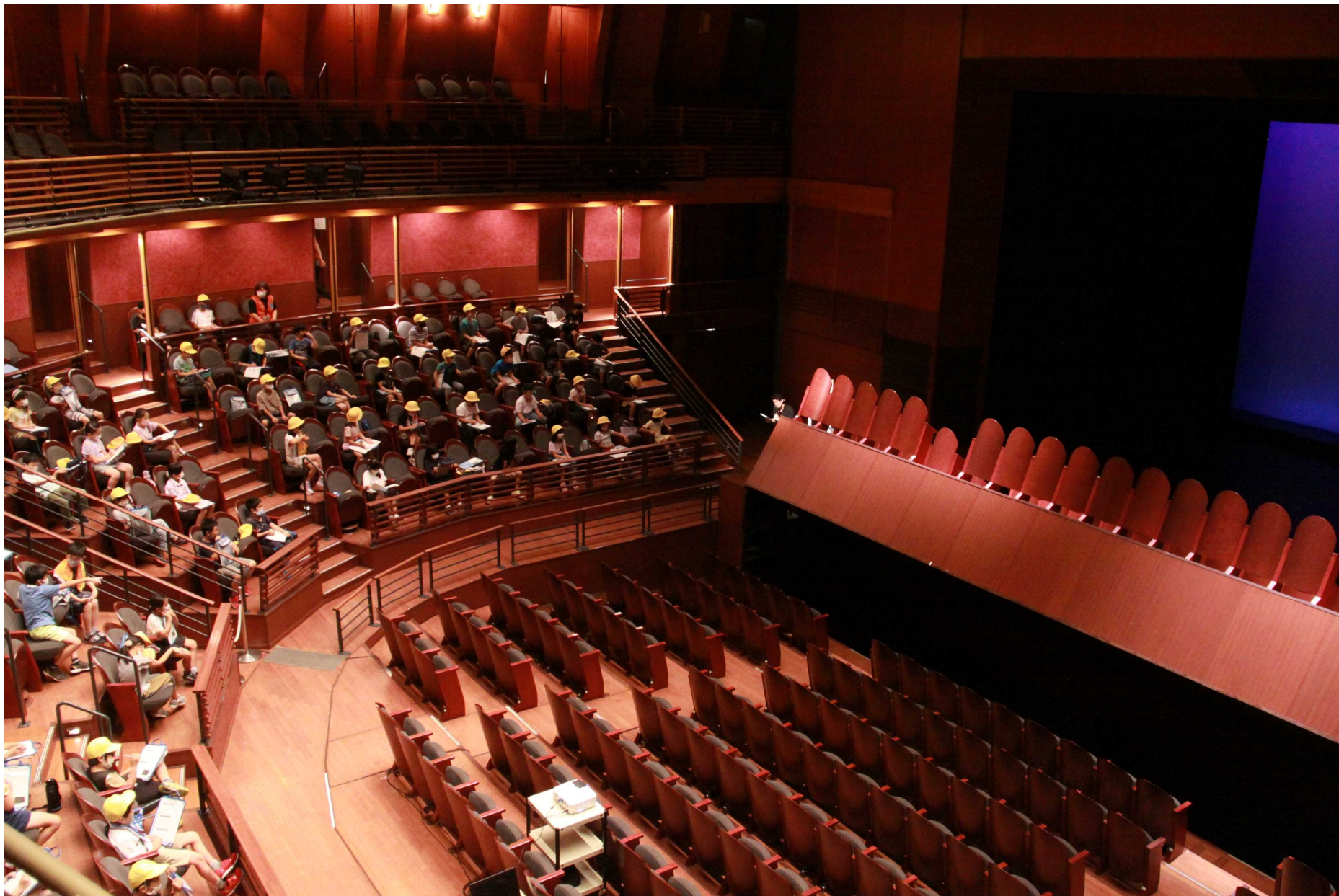
森のホールの客席が反転して設置される仕組みや、舞台裏を紹介。クイズや質問コーナーで楽しく学習。

舞台見学会の成果

文化の家に遊びに来たり、公演を見に来る子どもたちが増えている。



ホールを案内する職員と、魔界から来た研修生キャラクター



客席数を変更できる舞台機構、客席反転の実演を見学



質問コーナーで手をあげる子どもたち

職場体験

文化の家の業務を体験したり、芸術講座を体験する。職員との交流、会話を重視。

2015年頃開始 体験者数 毎年 6～8 人

対象：中学校2年生

案内：文化の家職員、創造スタッフ

職場体験の特徴

単純な仕事体験だけでなく、働いている人やアーティストの想いを知る機会。
未知の芸術との出会いの機会。

職場体験の成果

職員やアーティストの価値観に触れ、
将来について多様な選択肢を考える。



デザインの専門知識のある職員と取り組む、チラシ作成演習



アーティスト（創造スタッフ）と取り組む、テーブルゲーム制作

長久手市民の健康づくりを考えるためのアンケート調査(抜粋)

(1)調査の目的

本調査は、「長久手市健康づくり計画(第2次)」の最終評価及び今後の計画策定の基礎資料とするため、健康に関する市民の皆様の現状や考え方などを把握することを目的として実施した。

(2)調査対象および調査方法

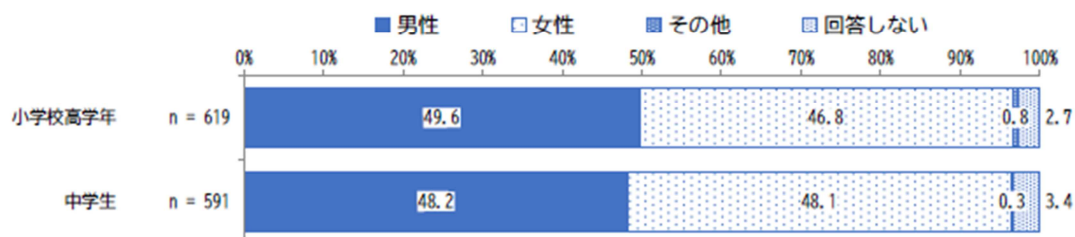
成人		小学生・中学生・高校生		
調査対象	市内在住の 満20歳以上の男女	市内の小学校に 通う5年生	市内の中学校に 通う中学2年生	市内の学校に 通う高校生
配布数	4,000	779	701	1,550
調査期間	令和5年8月29日 ～令和5年9月15日		令和5年9月1日～令和5年9月15日	
調査方法	郵送配布、回収は郵送 方式及びWEB回答方式		学校経由による配布、回収はWEB回答方式	

(3)回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
一般成人	4,000	1,378	1,377	34.4%
小学5年生	779	619	619	79.5%
中学2年生	701	591	591	84.3%
高校生	1,550	1,074	1,074	69.3%

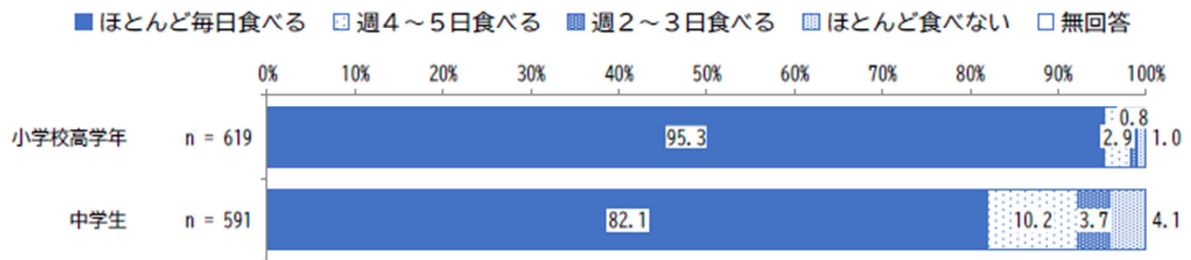
(4)回答者属性

①性別



(1)食生活について

① あなたは、朝ごはんを食べますか

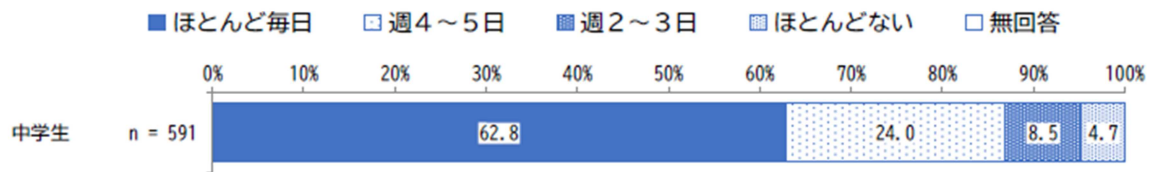


●小学校高学年では「ほとんど毎日食べる」が95%だが、中学校では82%に下がっている。

●平成30年の調査よりも毎日朝食を食べる人の割合が低下している。

(1)食生活について

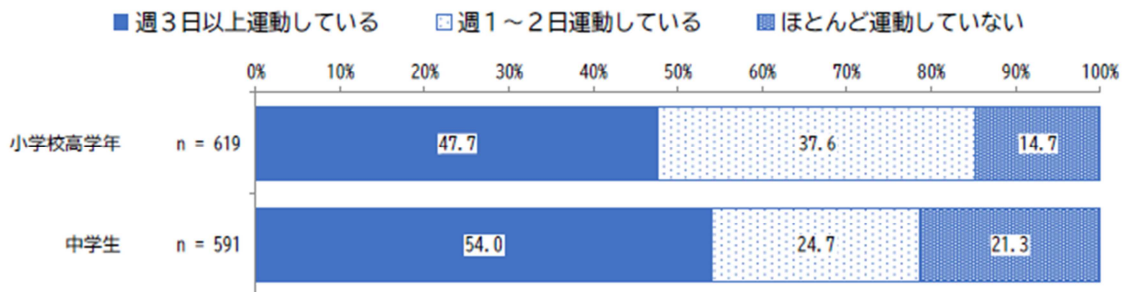
② あなたは、バランスのよい食事(主食、主菜、副菜を組み合わせた食事)を1日に2回以上食べていますか



●中学生で「ほとんど毎日」の割合が約6割。

(2)運動について

① あなたは、学校の体育の時間以外に定期的に運動していますか(高校生・中学生・小学校高学年)

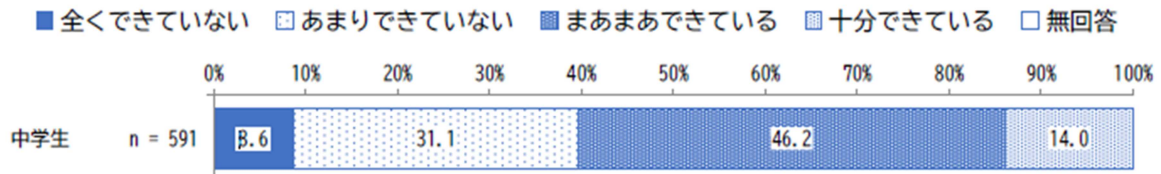


●学校の体育以外の定期的な運動は「週3日以上運動している」が小学生高学年、中学生ともに約5割。

●中学生では約2割が「ほとんど運動していない」と回答。

(5)こころの健康について

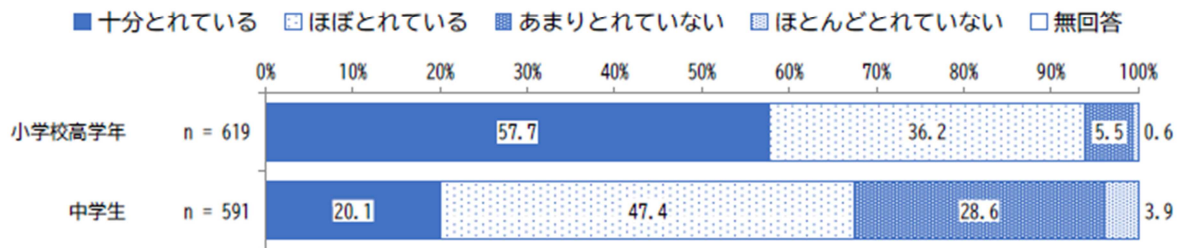
② この1か月間を振り返り、あなたは不満や悩み、ストレスなどを解消できていると思いますか



●中学生は、不満や悩み、ストレスなどを(あまり、全く)解消できていないと回答した人が 39.7%

(6)睡眠について

① あなたは、日頃の睡眠で十分に休息がとれていますか

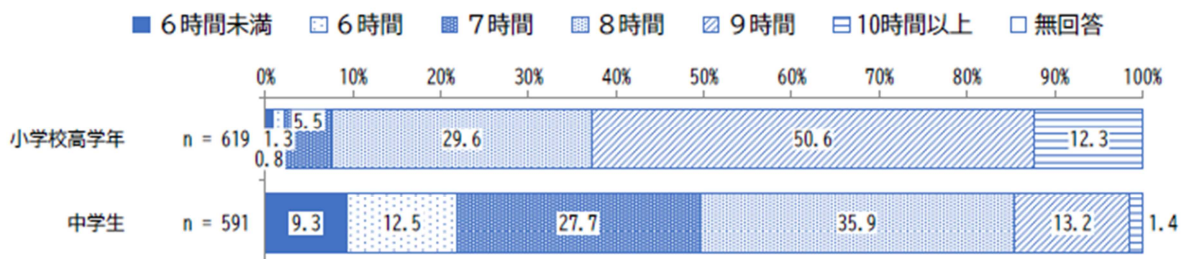


●日頃の睡眠による休息が「十分にとれている」「ほぼとれている」という割合は、小学生では 93.9%だが中学生になると 67.4%と下がっている。

●中学生は「あまりとれていない」「ほとんどとれていない」という割合が約 3 割いる。

(6)睡眠について

② 普段の睡眠時間

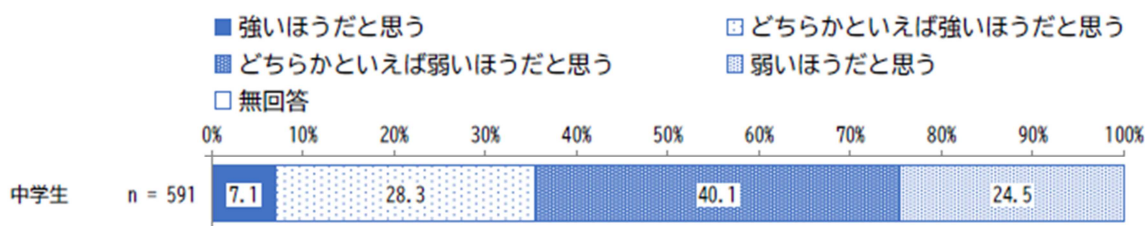


●小学生で最も多い回答は「9時間」で 50.6%

●中学生で最も多い回答は「8時間で」35.9%

(7)地域とのつながりについて

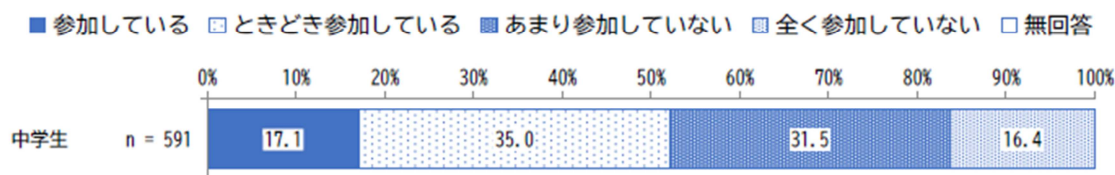
① あなたは、自分と地域の人たちとのつながりが強いと感じますか



●「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」と回答したのが 64.5%

(7)地域とのつながりについて

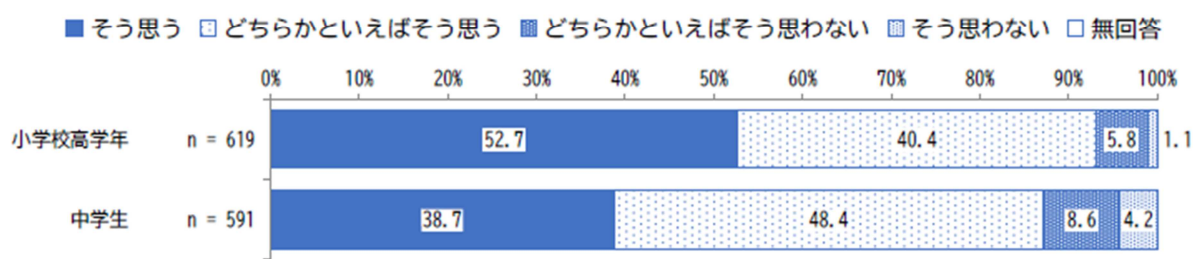
② 何らかの地域・社会活動に参加していますか



●地域活動への参加は 52%が「参加している」もしくは「ときどき参加している」と回答

(8)健康について

① あなたは、健康だと思いますか



●小学生では 93.1%、中学生は 87.1%が、主観的に健康と感じている。

(8)健康について

② あなたは、健康を意識した生活をしていますか

